

しなののうた

早朝に花火上がりて初恵比須娘と連れ立ちて神社に向かう



杉田小百合

しなののうた

暖冬に足音軽く身も軽く日と賑わえる参道のぼる

杉田小百合



しなののうた

巖かに社殿の笙の音が流れ長蛇の列に並び聞き入る



杉田小百合

しなののうた

雪のない松の枝吊る縄あまた冴えゆく空に幾何学模様

杉田小百合



しなののうた

種銭は商売元手の資金とぞ今に伝わる神事与る



杉田小百合